

今回の防災特集では、地震についてお知らせします。

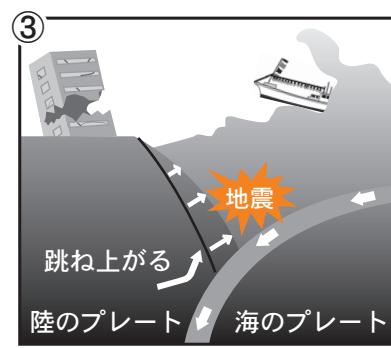
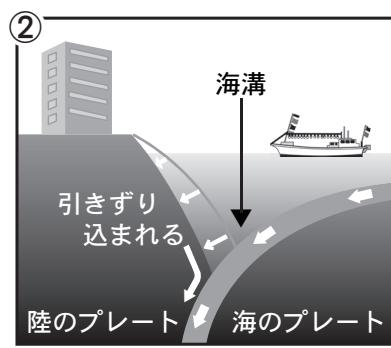
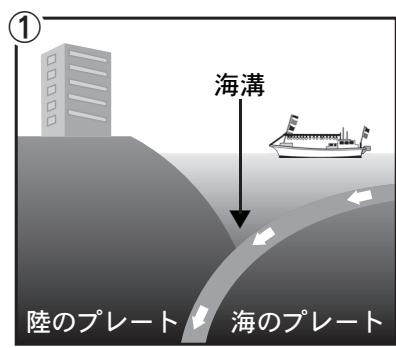
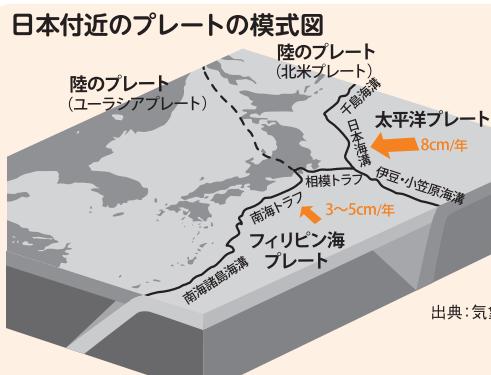
地震が発生すると、家屋の倒壊や土砂崩れ、津波を引き起こすなど甚大な被害が発生します。

地震はいつ発生するかわかりません。地震のしくみを理解し、日頃から地震の発生に備えましょう。

【地震のしくみ】

日本周辺では、海のプレートが、陸のプレートに対して、1年あたり数cm動き、陸のプレートの下に沈み込んでいます。

このため、日本周辺は、複雑な力がかかり、世界でも有数の地震多発地帯となっています。



プレート境界型地震と内陸型地震

地震には、プレートの境界付近で起こる「プレート境界型地震」と、活断層で起こる「内陸型地震(陸域の浅い地震)」があります。プレート境界型地震は、東日本大震災の発生時のような津波を発生させることが多く、一方、内陸型地震は「直下型」といわれ、阪神・淡路大震災の発生時のように、建造物に大きな被害をもたらします。

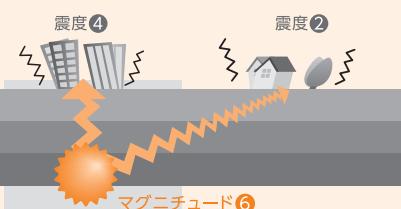
地震の大きさ～マグニチュードと震度の違い

マグニチュードは地震の規模(エネルギー)を表し震度は各地での揺れの強さを表しています。

マグニチュードが1多くなるとエネルギーが約32倍になります。



震度は地点ごとの揺れの強さ



同じ地震でも地点によって震度は異なります。

出典:気象庁

【揺れの大きさと想定される被害】

震度 1

屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。

震度 2～3

屋内にいる人の多くが揺れを感じ、棚の食器が音を立てることがある。

震度 4

吊り下げ物が大きく揺れ、不安定な置物が倒れる。
歩行者も揺れを感じる。



震度 6 弱

立っていることが難しくなる。壁のタイルや窓ガラスが壊れ落下する。
耐震性の低い建物は傾いたり、倒れるものもある。



震度 5 弱

食器や本が落ちたり窓ガラスが割れることがある。



震度 6 強

はわないと動くことができない。重い家具のほとんどが倒れ、扉が外れて飛ぶ。
耐震性の低い建物は傾くものや倒れるものが多くなる。
大きな地割れや地滑りなどが発生することがある。



震度 5 強

物につかまらないと歩くことが難しい。
タンスや重い家具、自動販売機などが倒れることがある。
自動車の運転は困難。



震度 7

建物が大きく破壊され、地割れや地滑りが発生する。



【地震から命を守る】

事前に備える

- 建物の耐震化
- 家具固定と安全スペースの確保
- 家族や職場で避難方法を話し合っておく
- 避難のための備えをしておく



グラッときたら 落下物から身を守る

- 机の下にもぐる（家やオフィス）
- 布団や枕で頭を守る（寝室）
- あわてて外に飛び出さない
- 火を止めるのは揺れが収まってからあわてずに



落ち着いて状況を 判断して次の行動へ

- 家族の状況は？
- 歩いてもケガをしない？
- 火災は起きていない？
- 避難口は確保できる？
- 津波の危険は？



◆津波が想定される場合は、直ちに高台へ避難しましょう!!◆